

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	災害復興制度研究所
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 日本災害復興学会のベースキャンプとしての拠点性を確立する。	→日本災害復興学会との共同研究数・共同イベント数および主催数。	B	B	B	B	/
2. 研究所を全学的な組織体制で運営する。	→研究所運営に協力する学部・研究科の数および研究所運営委員としての学部・研究科の教員数。学内研究員の数。学外研究員の数。	C	B	B	B	/
3. 研究所専従の専任研究員を増員する。	→研究所専従の専任研究員数。	B	B	A	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
4. 東日本大震災後の復興に対して本研究所が提起する「人間復興」の理念を実現するために、あらゆる機会を通じて、政府を含む関係諸組織に働きかける。	→福島県避難者総合支援プロジェクト遂行のための研究会・調査・イベント等の数	/	/	A	A	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	日本災害復興学会の拠点として、2012年10月6日～8日開催の福島大会の開催を支援し、次年度の大阪大会(10月12日～14日)の開催支援を継続して行っているが、さらなる拠点性の確立のために各種研究会開催の計画・実施の努力を継続している。
目標2	本研究所の種々の活動を通じて広く国内でその存在意義は認められているもの、その運営の基盤である学内での位置づけについては、その運営体制が現時点では総合政策学部・社会学部・人間福祉学部・司法研究科に限定されており、さらなる全学的な体制へと展開するように努める。
目標3	昨年度本研究所に承認されている1名の専任研究員の就任があった。さらなる増員については、外部資金等の導入による研究員の雇用など模索する必要があるが、極めて困難である。
目標4	2010年に新たに設定された本目標は、その年度中に実現されたが、今年度はその質の向上に努めている。
備考	